

令和5年度 学校評価表

島根県立松江商業高等学校

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値)

※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦、<100 C(できていない):<70

※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価計画				自己評価							学校関係者評価				
教育目標	重点目標	具体的目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B)	達成度(B/A)	評価	成果と課題	次年度への改善策	評価	コメント	
								アンケートは12月統計は2月							
豊かな人間性をもち、高い志を掲げ、主体的に学び、自立する生徒を育成する	学力を育む	望ましい学習習慣の確立 指導力の向上	教務	a. 授業の始めと終わりの時間厳守とあいさつの徹底 b. 学習規律の確立を目指した授業づくり	①わたしは、授業に積極的に取り組んでいる。	90%	アンケート(生徒2)	94%	104%	A	どちらの項目も昨年度より5ポイント上昇した。	今後も引き続きはじめのある指導をしていきたい。	A	・授業参観を通じて、「学ぼう」という雰囲気を感じられた。 ・商業高校ならではの専門知識を身に付けて卒業させてほしい。 ・検定資格の取得率に全国的にも高い目標を掲げて励んでいる。 ・社会的価値の高い国家資格へのチャレンジも後押ししており、今後も継続してもらいたい。 ・地域などで活躍している卒業生の姿からも、自己の学びを社会に広げ、活かしていこうとする心が育っていると感じる。	
				②先生は、生徒の授業態度に対してはじめのある指導をしている。	90%	アンケート(生徒9)	94%	104%	A						
				a. 適切な課題による家庭学習の習慣化	③わたしは、授業で出される課題や、検定試験に向けた課題に、家庭できちんと取り組んでいる。	80%	アンケート(生徒3)	87%	109%	A	③はほぼ横ばい、④は昨年度から10ポイント下降した。生徒が家庭で学習するような工夫に課題がある。				今後は生徒が家庭で学習してくるような指導を工夫していきたい。
				④生徒に家庭での学習を促すよう、教科指導や課題を工夫した。	80%	アンケート(教員1)	70%	88%	B						
				a. 研究授業、公開授業等の実施 b. 生徒による授業評価の実施 c. ICT環境の活用	⑤先生は、わかりやすい授業や、生徒自身が考える授業づくりに努めている。	90%	アンケート(生徒10)	92%	102%	A	⑤は5ポイント上昇、⑦は11ポイント上昇したが、⑧は12ポイント下降した。授業アンケートを実施し、結果を踏まえ改善するための手だてを考え、取り組むことに課題がある。				今後もわかりやすく生徒が考える授業づくりに努め、ICT機器の積極的な活用に取り組んでいきたい。授業アンケートは達成度が低かったため、来年度はFormで実施することを検討する。
	資格取得の支援	商業	a. 検定補習、集中講座の実施 b. 検定ロードマップの作成	⑧3年生の全商検定1級3種目以上取得率	40%	統計資料	33%	83%	B	全商検定1級3種目以上の取得者は56名。そのうち、1級7種目取得者1名、1級6種目取得者1名、5種目取得者8名、4種目取得者は18名だった。日商簿記2級、基本情報技術者試験等でも合格者を出すことができた。	全商1級3種目取得だけでなく、日商簿記2級や国家試験等での合格者数を増やしていきたい。CBT受験など生徒へ積極的な受験を促す。				
	社会力を育む	地域連携の推進と体験的学習の充実	商業	a. 「松商だんだんフェスタ」の充実	⑨商業の体験学習である「松商だんだんフェスタ」や学科・学年別校外体験学習は有意義である。	90%	アンケート(生徒8)	97%	108%	A	4年ぶりに入場制限をなくし、完全版松商だんだんフェスタを実施することができた。来場者も7,000人を超え、地域からの期待も高かった。継承されるはずだった課題と対応について、経験不足のため失われた部分も再確認できた。改善に向け検討していく。	保護者、地域の皆様から大きな期待をいただいております。また、県外からの協賛も多かった。注目される行事として、生徒を主体とした運営と地域や地域経済を巻き込んだ方法を検討していく。			・地域連携活動についての生徒の評価が高い。
				a. 地元企業説明会の実施 b. 進路座談会、進路講演会等の実施 c. 進路の手引の活用 d. 企業訪問の実施	⑩学校から提供される進路情報は、自分の進路を考える上で役に立つ。	90%	アンケート(生徒11)	94%	104%	A	企業説明会は48社に参加していただき3月開催予定。3年面接指導講演会は臨時休校のため実施できなかったが、1,2年進路座談会、3年進路講演会等、他の進路行事は予定通り実施できた。また、看護職や警察官を志望する生徒に対しては、それぞれ希望者対象の説明会を実施した。「進路の手引」は、保護者に進路説明会や面談で配布し、生徒も特別活動や説明会等で活用した。	進路行事の実施内容については、進路希望状況等を参考に改善点について検討する。1,2年進路座談会は講師確保等の面で実施が難しいことから取りやめて、他の進路行事の内容を充実させることで補う。「進路の手引」などの進路資料は、保護者にはPTA行事や面談で確実に配布し、情報の活用につながるよう工夫していく。生徒が情報を役立てられるように、1年次から活用機会を計画的に設ける。	・地域の企業や事業所の協力のもと、生きた学びができています。 ・だんだんフェスタについては、より生徒主体の活動になることを期待する。		
		望ましい勤労観・職業観の育成	進路指導	a. 一人ひとりに応じた進路指導(進学補習・小論文指導・面接指導等) b. 生徒および保護者への進路情報(進路の手引・進路だより・進路行事等)の提供と活用 c. ハローワーク、松江市との連携による求人開拓 d. 企業訪問等によるミスマッチの回避	⑪在学中に就職先を内定する生徒の割合(内定率)。	100%	統計資料	100%	100%	A	3年生の面接・小論文指導は、全教職員が協力して行い、進路補習についても各学期や長期休業中を通して実施した。 ⑪就職希望者の割合は減少しているが、求人数は増加傾向にある。1学期から就職を希望していた3年生は、一般企業、公務員ともに早い時期に内定をいただくことができた。	⑪本校への求人依頼企業が増えていることから、ミスマッチをなくすための情報収集を行う。教員は企業訪問や情報交換会で企業理解を深め、生徒は応募前見学、ジョブフェア参加の機会を活用する。 ⑫早期から進路について考え、目標設定や実現のための取り組みを行えるような進路指導を、学年部と協力して行う。学校見学会等への参加を促し、特に医療・福祉系については早い時期からの体験学習への参加を促す。	・進路実績が多様である。今後も進学・就職両輪で多方面への開拓を望む。 ・ボランティア活動へ参加する生徒が伸び悩んでいる。魅力を伝える機会を設けるなど、しかけをすることで活発化していく素地が、現代の若者にはある。		
				⑫在学中に進学先を決定する生徒の割合(合格率)。	100%	統計資料	100%	100%	A	⑫進学希望者は、多様な入試制度を利用し、検定や資格、課題研究の取り組みも生かして合格をいただいた。近年は、4年制大学の進学希望者が増えており、早期からの受験対策、情報収集等が課題である。					
地域貢献活動参加の推進		生徒	a. 地域に貢献する活動への積極的な参加の支援	⑬わたしは、今年度、ボランティア活動に参加した。(部活動や生徒会単位の地域清掃などの活動も含む)	40%	アンケート(生徒18)	18%	45%	C	今年度のボランティアの参加は非常に低い数値となった。コロナウイルスも5類となったが、校外ボランティア活動に少なく、生徒への案内数も少なかった。また、コロナ期間中にボランティアの実施はほとんどできなかったこともあり、活動の案内を出しても積極的に参加する生徒は少なかった。本校主催の清掃ボランティア活動は10月に実施し、33名が参加した。	ボランティア活動の意義も含めて生徒へ啓発し、校外での活動を積極的に勧めたい。また、本校主催のボランティア活動なども生徒への案内の仕方など工夫していきたい。	・ボランティア推進は自己満足にならないよう配慮が必要である。部活動や学校活動の中で派生的に生まれるボランティアも大切にしてほしい。			
生徒会活動の活性化	生徒	a. 全校生徒、教職員が一体となった学校(生徒会)行事への取り組み b. 各種委員会活動など生徒主体の活動の企画・実施	⑭わたしは、クラスの委員や係、または生徒会の活動に積極的に取り組んでいる。	75%	アンケート(生徒5)	85%	113%	A	球技大会、瑞木祭等生徒が主体となって、教職員とともに各行事を成功させることができ、大きな成果を残せた。各種委員会については、取り組み状況に差が生じた面もあった。生徒会執行部から各種委員会へのより積極的な働きかけが必要と感じている。	学校行事については、引き続き生徒が主体的に活動できるように基盤を整えていきたい。委員会活動については、執行部を中心に主体的に活動を企画立案し、実施していきたい。	・学園祭では生徒たちが生き生きとし笑顔が溢れていた。				

令和5年度 学校評価表

島根県立松江商業高等学校

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値)

※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦、<100 C(できていない):<70 ※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価計画								自己評価				学校関係者評価				
教育目標	重点目標	具体的目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B)	達成度(B/A)	評価	成果と課題	次年度への改善策	評価	コメント		
								アンケートは12月統計は2月								
豊かな人間性をもち、高い志を掲げ、主体的に学び、自立する生徒を育成する	人間力を育む	人権・同和教育の推進	図書人権教育・生徒	a. 生徒理解と信頼関係の確立 b. 人権・同和教育に関するLHRの指導計画立案 c. 実践をとまなう道徳教育の推進 d. 人権・同和教育および道徳教育に関する教職員研修の充実	⑮学校では、面談などを通して生徒理解を行う努力がなされている。	90%	アンケート(生徒13)	92%	102%	A	担任を中心に生徒面談、保護者面談を複数回行い生徒理解に努めている。教職員に悩みを相談できると答える生徒がやや少ない。生徒が学校生活で困っているときや、トラブルに巻き込まれた時に相談しやすいようにしていく必要がある。	生徒から気軽に相談できる雰囲気を作るため、平素より教職員から生徒へ声をかけたり、生徒の変化をよく観察する等、信頼できる関係を築く努力が必要である。	A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの部活動で、日々の個の努力と、部員同士の人間関係の醸成を基盤に、活動がおこなわれていると推察される。 互いの多様性を尊重し、他者の立場を思いやり、支え、支えられる人間関係を学ぶ場として部活動が機能しているように感じる。 地域の人材や社会人指導者等の活用により、部活動指導における負担の平準化が促進されるとよい。 部活動に所属していない生徒も、地域に出ることで横のつながりから学ぶことは多い。そのような学びの機会を学校としてつくってほしい。 		
					⑯学校には、教職員に悩みなどを相談できる雰囲気がある。	70%	アンケート(生徒14)	65%	93%	B						
					⑰人権同和教育および道徳教育に関する教職員研修は有益であった。	90%	アンケート(教員23)	78%	87%	B					訪問指導の日程の都合で、学校評価アンケート実施までに校内研修を行うことができなかったが、その後実施することができた。人権同和教育課等からの指導・助言を得ることが出来た。また情報提供もしていただき有意義な研修会が持てた。	次年度は訪問指導非該当年であるので、年度中にその成果を実践出来るように早い時期に研修を実施したい。
		配慮を要する生徒への支援	保健	a. 関係する教員間での情報共有 b. 教育相談、生徒支援の委員会(さわやか委員会等)の充実	⑱配慮を要する生徒の情報を共有し、協力して支援を行なうことができた。	90%	アンケート(教員12)	97%	108%	A	配慮を要する生徒に対して、さわやか委員会・特別支援校内委員会等で支援方法を検討して、その情報を共有して支援にあたることができた。	配慮を要する生徒に対して、今後も、一人ひとりに合った支援方法を探り、全教職員で情報を共有して支援していけるようにコーディネートしていきたい。				
					望ましい生活習慣の育成	生徒	a. 身だしなみ指導の計画的実施 b. 全教職員と生徒会による登校指導と適切な声かけ c. 校外でのマナー(通学マナー)指導の充実 d. 校外での挨拶の励行	⑲ビジネスマナー指導は自分にとって役に立つ。	90%	アンケート(生徒12)	90%	100%			A	体験学習等を通してビジネスマナーの重要性を理解でき、肯定的にとらえているが、場に応じたマナーや対応力が身につけていない生徒も多い。
		保健	a. 清掃指導の徹底 b. 清掃意欲の醸成	⑳わたしは、清掃活動に積極的に取り組んでいる。				95%	アンケート(生徒6)	96%	101%	A			生徒は真面目な態度で清掃に取り組み、教職員も毎日担当場所で指導に当たった。	取り掛かりの遅い生徒がいるため、今後素早く取り掛かるように指導していきたい。
		統計資料	㉑毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%				統計資料	98.3%	99.3%	B	教員による朝の登校指導(あいさつ、登校マナー)で、生徒の様子を観察しながら継続的に声かけを行った。コロナウィルスも5類となり、風紀委員によるあいさつ運動の実施も今後行っていき、明るい学校になるように取り組んでいきたい。			身だしなみや校外におけるマナーについての意義を定期的に全校で確認する機会をもち、引き続き生徒部と学年部で連携しながら全教員で取り組んでいく。	
		統計資料	㉒非遅刻率	99%	統計資料	99.5%	101%	A	振る舞いや身だしなみについても、計画的に身だしなみ指導を行い、成果は感じられる。一部気になる生徒もいるので、一過性ではなく継続的な指導を行っていきたい。引き続き生徒部と学年部で連携しながら全教員で取り組んでいく。							
		アンケート(生徒4)	㉓わたしは、高校生らしい身だしなみを心掛けている。	95%	アンケート(生徒4)	96%	101%	A	新資料の受け入れがスムーズにできた。	より迅速な資料の受け入れと収集を目指したい。						
		図書教書育人	a. 自ら学び、調べる能力を読書を通じて育てる	㉔図書館には読書や調べ物に適した資料が揃っている。	70%	アンケート(生徒16)	83%	119%	A	運動部・文化部ともに部活動は盛んであり、部活動への強い参加意欲をもって入学する生徒も多い。部活動を通じて豊かな人間形成を図りながら、将来の進路に向けて自己実現が図れるよう支援していく。また、学習活動や資格取得に取り組む時間の確保等、進路保障も考えながら取り組んでいく必要がある。	部活動を通じて豊かな人間形成を図りながら、将来の進路に向けて自己実現が図れるよう支援していく。					
部活動を通じた人間教育の充実	生徒	a. 各自の目標達成への支援	㉕部活動加入状況	90%	統計資料	94%	104%	A								